

特集 伝統を受け継ぐ

Interview ~若者の声~



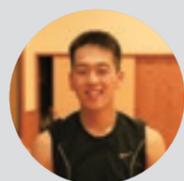
東倉 翔太さん(23)

地域の声援が何よりの原動力

初めて参加したのは中学生の時、獅子舞自体を知りませんでした。地域の皆さんの声援が嬉しくて、もっと広めていきたいと思っています。本番では自分たちの成長した姿を見てほしいです。

憧れの人に近づきたい

数種類の演舞から「これを演じて」と指名される時、自分の練習が評価されるとやりがいを感じます。地元の憧れの人が目標で、使命感に繋がっています。



仙波 絃介さん(23)

形になった時の一体感が魅力

太鼓はペアで叩きます。力の強弱やリズムも口で教えられてきました。太鼓と獅子舞が合わさった時の一体感が壮大で、とても魅力的です。ぜひ見てください。



左・高尾 実里さん(14)
右・相原 琴さん(13)

これからも続けていきたい

元々ダンスが好きなので楽しいです。教えてくれるおかげで上手になっていると実感します。メインの二羽獅子を友達にも見てほしいです。



峰岡 未央さん(10)

また、忠実に伝承された演舞や伝承によって進化していった演舞など、地域ごとの違いも観客を楽しませる要素の一つです。

今月の広報は、獅子舞の伝承に努める保存会の人たちの思いや取り組みを紹介し、獅子舞を見たことがない人に、演舞の楽しみ方をご紹介します。

と練習を重ねる若い人たちの姿がありました。「練習はしんどいけど、楽しい」「参加したきっかけは些細なことだけど、これまで演じてきた思い入れがある。私たちの代で絶やしたくない」と踊り手の仙波絃介さん(23)は獅子舞のやりがいを話し、「後継者不足は課題ですが、多くの人に良さがわかるように演じて、後輩にも伝えていきたいです」と中学生たちの指導に力を込めます。

ます。保存会代表の徳野守さん(57)は、「保存会の活動は地域の皆様のご協力によって成り立っています。夜の練習では音も出ますし、獅子の維持にはお金もかかります。保存会は、地域の人たちが集まりやすい会になるように活動して、練習を見て成長する姿を感じていただくことで、地域の結びつきをより深めたいと思います」と地域の皆様へ感謝の気持ちを伝えました。

特に秋祭りで披露される獅子舞は、飢餓や疫病など悪いものを追い払う意味を込めて舞っていたものが、近年では、大衆を歓ばせる芸能の意味合いを含みながら進化しています。口承や身振り手振りで伝承されてきたことによって、地域ごとの演じ方や所作の違い、

神 仏への祈願や五穀豊穡への願いとともに生活に密着し、長い歴史を通じて培われてきた地域の伝統芸能は、どれもが地域の宝であり貴重な財産です。時代の流れとともに家や道路など風景は変化していくものですが、地域のお祭りは小さい頃に見たままの光景で私たちを楽しませてくれます。

保存会による次代への継承

北方の獅子舞は、揚神社の秋祭りの行事の一つとして、江戸時代から地区の若者たちの手によって伝えられてきました。昭和52年に北方獅子舞保存会が結成されて以来、現在では地域の小・中学生を伝承者に加え、保存に努めています。昭和52年に旧川内町の無形文化財(現在市指定)に指定されており、二羽獅子、乱獅子があり、メリハリのある太鼓、獅子遣いが勇壮です。

地域に感謝して続ける活動

北方獅子舞保存会の練習が始まるのは毎晩19時30分。先に子どもたちが練習し、21時からは大人が練習します。取材当日、練習場所である北方東公民館では、黙々



技術だけではなく教育の場として—— 生きるために大事な「心」を育てたい。

父が獅子舞をしており、私も小学生の時に子役を演じていました。保存会は年代も多様で、演舞は先輩が後輩に教え伝えています。その過程で人との接し方や躰が身に付き、同年代の子は、「あの子より上手になりたい」「どうやってやりよん?」と教えあう姿も見られ、良いライバル関係と競争心が育まれています。保存会では技術と一緒に「心」も伝えていきたいですね。



北方獅子舞保存会
代表 徳野 守さん(57)



次の世代を担う子どもたち



それぞれの演目によって違いのある獅子の舞。例えば「相ノ切」は、ひより、あしくい、つべくい、かたおとし、ふりだし、いかり、いもほり、さんごき、すましという9つの場面で構成され、獅子の一日の生活を表現しています。(資料「愛媛県の民俗芸能」より) 何を表現しているのか地域の人と話しながら観覧するのも面白いかもしれません。

ひより
獅子が朝起きてその日の天気をみる様子
あしくい
獅子が自分で自分の足を掃除する様子
つべくい
自分の尻を掃除する様子
かたおとし
床から起きあがり準備運動をする様子
ふりだし
えさを探す様子
いかり
えさが見つからないので腹を立てて怒る様子
いもほり
山いもなどを見つけて掘り出す様子
さんごき
満腹・満足の様子
すまし
一日が終わり自分の巣へ帰っていく様子

三

獅子の動きには意味がある。



生の演舞をその目でご覧ください!

獅子舞はこんなに面白い!!

一

地域によって違いのある獅子舞の演目。

トントコトン。トントントン。近所から聞こえる太鼓の音が、秋祭りの季節がやってきたことを教えてくれます。東温市には各地に獅子舞保存会が結成されており、10月中旬の秋祭りに向けて、集会所では日々練習が行われます。
「見たことがある」という人は多いですが、獅子の舞にもそれぞれ意味が込められています。その一部をご紹介します。

獅子舞の演目はさまざまな名称をつけて呼ばれており、地元の人でないと分からないことも。本来は地域の安全を祈願する芸能でしたが、「おやし」「猿と狐」「狩人」など観衆を歓ばせる芸もあります。猿が農耕の所作を真似たり、狐が曲芸的な演技をして見せる場面もあって、滑稽な仕草が特色です。



二

早朝より始まり、多くの演目を披露。

地域の神社で神輿の宮出しが行われる午前6時。獅子舞の三番叟、神楽が奉納されます。その後も神輿と一緒に地区内を回り、上演する場所によって、演目も異なります。

東温市 獅子舞大会 日程

お知らせ

市内の獅子舞保存会の皆さんによる演舞が披露されます。ご声援をお待ちしています。

日時 10月12日(土) 正午～
会場 中央公民館 大ホール
川内公民館 大ホール

出演

=重信=
樋口、志津川、西岡、見奈良、田窪、浮嶋神社奉賛会、堀池、南野田、北野田、上村、下林
=川内=
北方、松瀬川、永野、保免・一ヶ谷、奥松瀬川、和田丸
※地区名+「獅子舞保存会」順不同

四

雄壮な獅子の遣い方。

獅子の細かな立ち振る舞いや、太鼓の叩き方は地域によって違いがみられ、獅子舞が人の手によって伝えられてきたことが分かります。メ



五

子どもたちが演じる服装にも注目。

地元の小学生や園児たちは子役となり、農夫婦の着物やももひき、たすきなどで扮装します。獅子おこしでは、着物にたすき、はちまき、前掛け姿に白足袋を身につけて、演目によって傘、鉄砲、薙刀、刀、鈴などを持ちます。その日だけの特別な衣装をきた子どもたちにも注目です。

三番叟の獅子おこしの詞章

おおさいや おおさいや
よろこびや
このところより
ほかにはやらじと
あんば ははあ

資料に記載されている獅子おこしを舞う前の言葉です。皆さんの地域ではどうでしょうか?

